

# 第 77 回北摂小児科医会プログラム

日時：平成 26 年 12 月 13 日（土）午後 3 時

場所：箕面市立病院 リハビリ棟 4 階 いろはホール

〒562-0014 箕面市萱野 5-7-1

TEL：072-728-2001(代表)

# 第 77 回北摂小児科医会 プログラム

日時：平成 26 年 12 月 13 日（土）午後 3 時

場所：箕面市立病院 リハビリ棟 4 階 いろはホール

〒562-0014 箕面市萱野 5-7-1 TEL：072-728-2001(代表)

## ◇話題提供(15：00～15：10)

「インスリンアナログ製剤「ヒューマログ注」関連情報」

日本イーライリリー(株)

## ◇一般演題(15：10～16：40)

座長 溝口 好美 先生（箕面市立病院 小児科 部長）

### 1) 『外傷を契機に toxic shock syndrome(TSS)を発症した一例』

市立豊中病院 小児科

○島越洋美、川上展弘、松田百代、前川加奈美、奥廣有喜、上山薫、福田ひとみ、後藤実加、波多野麻依、田中麻希子、杉山正伸、吉川真紀子、徳永康行、茶山公祐

症例は 7 歳男児。左膝の受傷 5 日後に発熱、意識障害を主訴に当院へ緊急搬送された。受診時高熱、低血圧、頻脈をみとめ全身は紅潮し、四肢冷感が著明であった。入院後抗生剤加療と補液を施行し症状は軽快した。受傷部からの排膿液の培養から TSST-1 産生 MRSA が検出され TSS と診断した。TSS は黄色ブドウ球菌や化膿性連鎖球菌の産生毒素によって引き起こされ、複数の重要臓器機能障害を伴う重篤な症候群であり、TSS が疑われる症例は直ちに入院して集中治療を行う必要がある。

### 2) 『急性散在性脳脊髄炎 (ADEM) の 1 例』

市立伊丹病院 小児科

○山口 智裕、川村 孝治、中野 さやか、神尾 範子、中里 寿美子、薮田 玲子、有田 耕司、三木 和典

症例は 4 歳 9 ヶ月の女児。入院前日より 40 度台の発熱を呈し、解熱剤で様子を見られていたが解熱なく、嘔吐・幻覚症状が出現したため、近医より当科に紹介受診となった。髄液検査では明らかな細胞数の上昇はなかったが、脳波では全般性に速波と高振幅波を認め、頭部 MRI 検査の FLAIR で右放線冠から右前頭葉の皮質下白質に 7mm 大の高信号域を呈したため ADEM と考えステロイドパルス療法を行った。当科での経過もふまえ報告する。

### 3) 『下垂体後葉の信号強度が変化した中枢性尿崩症の一例』

箕面市立病院 小児科

○奥山直美、桂聡哉、梶田聡実、山本恭子、東純史、金野浩、溝口好美、下辻常介、山本威久

症例は 7 歳女児。3 歳 11 ヶ月時に多飲・多尿で当科を受診。尿浸透圧低値を認め、頭部 MRI、T1 強調像で下垂体後葉の高信号の消失があり、水制限試験、高張食塩水負荷試験から中枢性尿崩症と診断し DDAVP 点鼻治療を開始した。2 年後に下垂体後葉部に T1 強調での高信号を認めたため発症時の MRI を再検討したところ、同部位に T1 強調で低信号を呈するラトケ嚢胞と思われる病変を認めた。T1 強調で高信号のラトケ嚢胞は炎症を来たしやすく今後の経過観察が必要と考えられた。

#### 4) 『右3区域切除術を施行した、肝芽腫の1例』

兵庫県立塚口病院 小児科、小児外科

○高橋 知也、窪田 博仁、宇佐美 郁哉、高田 齊人、渡邊 健太郎、片山 哲夫

患児は1歳3ヵ月女児。当院受診4日前に近医を受診し弾性硬の腹部腫瘤を認め当院紹介となった。造影CTで肝内に右葉後区域や左葉外側区域まで及ぶ腫瘍を認めた。AFP153万ng/mlで、肝生検で肝芽腫胎児型と診断した。PRETEXTⅢであり、中間リスク群プロトコールで化学療法を開始した。化学療法5コース終了後、腫瘍の退縮を認めた。右3区域切除術を施行し、腫瘍の完全切除を行うことができた。今回の経過について文献的考察を交えて報告する。

#### 5) 『後部尿道弁による排尿障害の男児例』

近畿中央病院 小児科

○戸井洋子、大西寿久

排尿障害はその原因により治療方針が異なる。我々は夜尿症として長期間にわたり薬物療法やアラーム療法を受けていた後部尿道弁による排尿障害の男児例を経験した。症例は7歳男児。主訴は夜尿。扁桃・アデノイド除去術を受け、入院中に夜尿の原因精査を行った。尿管異所性開口を疑い県立こども病院泌尿器科に紹介、後部尿道弁と診断され現在もフォロー中である。排尿障害は様々な原因で発症するが、その原因が判明するだけで家族や本人の心理的負担を軽減できる場合がある。本症例に若干の知見を加え報告する。



----- コーヒータイム -----  
(16:40~16:55)



◇総会 (16:55~17:00)

◇特別講演(17:00~18:00)

座長 山本 威久 先生 (箕面市立病院 副院長)

#### 『小児夜尿症の診断と最近の治療法』

演者 関西医科大学 小児科学講座 主任教授

金子 一成 先生

小児の夜尿症は有病率が高く、診察する機会が多い。そのさい生命に危急のおよぶ疾患ではないため「経過観察」といった言葉を口にしがちである。しかし夜尿症の子どもとその親は悩んだあげくに救いを求めて受診している。したがって、まず本人と親の疑問や不安を受け止めた上で、夜尿症の病因や病態を分かりやすい言葉で説明し、具体的な対処法と治癒までの見通しを示すことが基本となる。

講演では、すぐに役立つ知識を紹介することを目的として、小児の夜尿症について、その定義や疫学・病態、臨床所見、治療をお話しし、最後に夜尿症研究における最近のトピックスを紹介する。

◇本会終了後、意見交換会を御用意しております。

共催：北摂小児科医会／箕面市立病院

日本イーライリリー(株)/ノボノルディスクファーマ(株)/Meiji Seika ファルマ(株)

## 【会場までの案内図】



【お越しの際に公共交通機関をご利用の方】



○千里中央発→箕面市立病院前

<11番のりば>

13時：17分、45分

14時：17分、45分

15時：17分、45分

<7番のりば>

13時：13分、33分、53分

14時：13分、33分、53分

15時：13分、33分、53分

○阪急箕面駅発→箕面市立病院前

<2番のりば>

13時：30分

14時：30分

15時：30分

11番のりばと7番のりばでは出発時刻が異なりますのでご注意ください。

【お帰りの際に公共交通機関をご利用の方】

○箕面市立病院→千里中央駅

18時：00分、45分

19時：00分、45分

20時：00分、45分

○箕面市立病院→阪急箕面駅

18時：26分

19時：41分

20時：44分

<阪急バス乗場>

